

新任保育士のために

(全ての子どもが大切にそだてられ、主体的で、
能動的に、生活し遊ぶ子どもに育てる。)

やまぼうし保育園

やまぼうし保育園では、子どもの教育を保育士の人格を使って行う人間教育だと考えています。3つの事を心得として大切にしたいと願っています。

教育とは

- ①ひたすら子どもを愛すること。
- ②子どもを発達させること。
- ③大人がモデルを見せること

(ペスタ・ロッチ)

乳児の生活を組織するために大切な事

①保護者との関係

基本原則 1) 家庭での教育の優先性の尊重

★家庭の習慣や伝統を尊重しながら、

家の教育の必要性と可能性に応じて不十分な点の補充・補正を行います。

②慣らし保育

★新しい状況に移る時も、常に段階的に子どもたちには、伝えていく、その事に変化することも、受入れる。

③担当制

★子どもとの良い関係ができることで、愛着が形成される。

④クラス編成

★幼児に上がるまでは、持ち上がりするこ

とで、保護者との信頼関係も深まる。

⑤日課

★子どもの規則正しい生活リズムを保障でき、子どもも、見通しを持って一日を過ごせるようになる。

基本原則

1・家庭での教育の優先性の尊重

子育て、子どもの教育は、家庭の権利と義務です。園は、家庭の教育の価値・伝統・習慣を尊重しながら保育する中で家庭の教育の必要と可能性に応じて、不十分な点の充足、補正を行う。

2・子どもの人格尊重の原則

子どもは発達途上の人格としてより小さい範囲での有能性がありながら、より大きい範囲の助けがないしは依存の要求があります。

3・教育と育児の一体性の原則

教育と育児は常に不分離で一体のものです。概念として教育はより広い、育児はより狭いものです。育児のどのような面でも、教育がなされていますが、教育の場面や可能性は育児の場面に限られはしません。

4・個人的接し方の原則

子どもの発達にとって大人の心からの関心・注目・尊敬・は生活の個々の状況下で大切です。保育者は温かい、愛情に満ちた受容の姿勢を持って適切な環境形成、個人の独自性、発達程度その日の生理的・心理的状況と気分に関心を注ぎ、その子の発達を助ける。

5・安定と継続の原則

子どもの人的・物的環境の継続性（担当保育者・持ち上がり制・クラス空間の不変性）は情緒的

安定を増し、案内を得ることと、良い習慣形成の元となります。日課の継続性、小さな場面が組合わさった大きな繰り返しは案内を得る事を可能にします。子どもの新しい状況への習慣づけは、順次、変化の受容新規なもの認知、習慣形成へと助けます。

6・能動性・自立の芽生えを助ける

子どもを励ます事・全ての表れや表現を認め、応援し、要求に応じて助けること。子どもの意見への注目・聞いて上げる姿勢、その子にふさわしい決定の可能性の確保これらは乳児の教育で重要な課題の1つです。保育者は、体験獲得の確保の可能性、自らのモデルの提供、個々の生活状況を子どもに分かりやすく、納得しやすく、扱いやすくして上げることを通して、個々の経験の消化を助け振る舞い方を試みることを

励まし、振る舞い方の学習を容易にする。

7・大人達の影響の一致のために

大人達は・・・勿論その人たちの間にある人格に関わる差異をおかす事なく・・・子どもを受容とその場の必要性に応じた情緒的安全と愛情に満ちた育児の提供において、子どもの自己行為の確保において、一致していなければいけません。そして目的に関する考え方が必要ですし、教育・育児者としての実践をお互いに近づけなければなりません。

保育者の役割

- ①肯定的に見守る
- ②遊びの組織の仕方（動と静の遊び・室内と戸外の遊び）
- ③葛藤の解決（a 待つ事 b 選択すること c 頼むこと）
- ④知識の提供
- ⑤褒めること・勇気づけること・はげますこと
- ⑥道具・空間・モチベーション・モデルの提供
- ⑦美的環境・音楽的環境を用意する
- ⑧体験を想起させる

育児の中で育つ社会性

(私) の発見のために

集団生活している子ども達にとって育児の時間は、大人と1対1になれる貴重な時間です。集団の中のひとりではなく、世界でたった一人の私として見てもらうことができる。社会性の確立の大前提に(私)という感覚があること。つまり環境と自分を分けて考えられることが大切。

幼児保育

個人としての子どもから集団の中の子どもへ
就学までの3年間に

幼児の段階では、いろいろな行為がより深まり、
他人を意識した行為へと発展していきます。

- ①保育者を手伝ったりしてくれるようになる。
- ②食事の面でも他人の食事の手伝いや準備、片付けを手伝う。
- ③排泄の面でも単に水を流す岳でなく他の人も気持ちよく使えるように配慮もできるようになる。
- ④着脱も自分で着るということから身だしなみを整えるというところまで、気を配ることができます。
- ⑤仲間関係の意識も発達して、小さい子や、困っている子に必要な手助けができるようになる。

る。

仲間・集団・社会などへとけ込みを見せ始めるのは、幼児段階からと言えます。

だからこそ <一人でできるよ><もうできるよ>が大切な基本段階が乳児期に到達していることが、大切です。

幼児に上がった時に確認しておく事項

幼児期の生活の組織（保育者の役割）

3つの行為の内容を積極的に評価し認め、見守ってあげること。①自分のことは自分です
②保育士の手伝いをする。③保育士に色々教えてもらおう。★これらのことをやりやすくする条件を整えていくこと。★子どもが望む事は一緒にしながら、教えていくことに喜ぶ気持ちが持てることが基本的なことです。

幼児の遊び（社会になじむための練習）

乳児後半から周りの大人や、お母さんの模倣をするようになります。子どもが社会に一步步慣れていくには、自分づくりの準備つまり（家族・友達・他人）によりなじんでいくための練習を始めるのだと思います。

小学校に上がって学校という社会に適応し、集団生活の習慣（おはよう）（有り難う）（貸してくれる？）（手伝って）と言えるなど、仲間関係の習慣がしっかりついている必要があります。

自分で授業や行事に参加する興味を持つ、集中して行う、持続していくなどの力や気持ちは保育園で遊びの中で体験をたくさんしていないと育ちません。人の話を最後まで聞くためには、人の声に注目できる耳を持つ、待つという力も備わっていかなければいけないのです。

保育士は子どもの社会化を助ける。

★友達と一緒に遊べるようになってほしい。

★友達のしていることに興味を持ってほしい。

★人と積極的に関わる関係をつくること。

すなわち

自分と周りの環境との間に良い関係をつくってほしい。それは、＜人・社会・道具＞に関して適応できる能力を育てたい（社会性）

幼児は集団の中で、自発的・主体的に＜何をここで、誰とやりたい＞を決定していくプロセスを子ども自身が持てること。

それを保育士は、保障していくこと、そのためには、いくつかの中から子どもが選んで決めるという自己決定につながる部分を大前提にしなから、園や部屋で一日を過ごします。

幼児の遊び

幼児の教育の独自性

★保育園の教育は遊びを通して行われる。

遊びの種類

a 練習あそび

b 構成・構造遊び

c 役割遊び

d ルール遊び

★遊びを発達させる条件

①子どもの体験を知る。

②体験・経験

④ 大人のモデル

★子ども達が体験し、得た知識を共有し、思い起こす作業は（遊び）を通して行われることが多い。体験したことが、遊びとして再現できるような、場所・道具の援助を的確にし

てやりたいものです。

子どもの遊びを多彩にするには

(保育士の遊びの状況づくりが大切)

子どもの遊びは

私たちに色々気づかせてくれます。子どものする事を見て言っていることを聞いて、子どもが何に気づいているのか、いないのかを考え共感します。遊んだことによって自分の中に消化作用がもたらせること、つまり子どもでも保育士でも、遊ぶ前とは違った自分になることが遊びの本質です。

関係づくりを学ぶ基本は模倣

子ども達は役割遊びの中で、家族をつくること、子どもの世話をすること、何らかの職業につくこと、コミュニケーションすることを表します。自分の身近にあるものや、人々の中にあることで、

身の周りに起こる出来事そのものに関心を向け、観察し、何らかの意識が進んでいきます。人間的な行為のためには、道具も大切です。個々の行為の模倣、再現だけでなく、その行為の伴った人間の振る舞い、態度、感情、姿勢といったことも模倣され、練習されています。

Q & A

- 1) エプロンと三角巾は白いのは？
- 2) なぜエプロンと三角巾をつけるのか？
- 3) 先生と呼ばないのはなぜ？
- 4) わらべうたしか唄わないのはなぜ？
- 5) ピアノがないのはなぜ？
- 6) 時計がないのは、なぜですか？
- 7) 乳児が行事に参加しないのはなぜ？
- 8) 幼児は異年齢のクラスなのはなぜ？
- 9) 乳児の部屋が2階にあるのはなぜ？
- 10) キャラクターの物はいけないのはなぜ？
- 11)

